

2. カナダ

(Canada)

2.1 障害者スポーツの歴史的背景と現状

(1) カナダの障害者スポーツの歴史的背景

1940年代に誕生したモントリオールとバンクーバーを拠点とする2つの車椅子バスケットボールチーム（Montreal Wheelchair Wonders と Vancouver Dueck Power Glides）は、国内での対戦機会が限られていたため、アメリカのリーグに参加するなどして発展してきた。1953年、Montreal Wheelchair Wonders がイギリスで開催されたストック・マンデビル競技大会に参加し、国際大会デビューを飾った。カナダのパラリンピックへの初参加は1968年にイスラエルで開催されたテルアビブ大会で、22人の車椅子選手が参加した。

カナダの障害者スポーツの発展及び国際大会への参加に大きな影響を及ぼしたのは、のちにカナダパラリンピック委員会（Canadian Paralympic Committee：CPC）の設立に尽力することになる整形外科医・ロバート・ジャクソン医師であった。1976年、第5回パラリンピック競技大会として知られるようになる「トロントリンピアード（Torontolympiad）」は、四肢切断や視覚障害の選手が出場した初めての大会としてトロントで開催された。この大会を機に、政府は障害者のスポーツ機会創出のために、予算を割り当ててようになった。

1981年、4つの障害者スポーツ団体（カナダ障害者スキー協会、カナダ切断者スポーツ協会、カナダ視覚障害者スポーツ協会、カナダ車椅子スポーツ協会）からなる「カナダ障害者スポーツ団体連盟（Canadian Federation of Sport Organizations for the Disabled：CFSOD）」が設立された。連盟は、大会・イベントの開催、障害者スポーツの周知、コーチ・指導者の管理などに加えて、パラリンピックへの選手・チーム派遣、障害者の全国大会「Foresters Games」（1987～1993年）を開催してきた。この大会は隔年で開催され、ブリティッシュ・コロンビア州（BC州）アボッツフォード（1993年）が最後の大会となった。

CFSOD は、1993年、カナダ政府から国内の障害者スポーツ統括団体として認められたことを受けて、カナダパラリンピック委員会に名称を変更した。同年、カナダの4年毎の全国大会である「カナダ競技大会（Canada Games）」がBC州カムループスで開催され、初めて障害者アスリートが出場した。現在、身体障害と知的障害アスリートの出場機会を拡充し、陸上、水泳、スケート、スキー等の競技が実施されている。

2003年、バンクーバーオリンピック・パラリンピック冬季競技大会（2010年バンクーバー大会）の開催が決定すると、バンクーバーオリンピック・パラリンピック冬季競技大会組織委員会（VANOC）が創設され、大会組織委員会では、史上初めて、組織委員会名に「パラリンピック」の名称が入り、さらには、パラリンピアンが委員に名を連ねた。

2009年には、アメリカ大陸の国々が参加する4年に一度のスポーツ競技大会「パンアメリカン競技大会2015」と障害があるアスリートが出場する「パラパンアメリカン競技大会2015」のトロント招致に成功した。パラパンアメリカン競技大会は、2015年8月、パンアメリカン競技大会開催後、9日間に渡ってトロントで開催され、15競技に1,600人以上の選手が参加した。トロント大会では、弱視の動物として知られるハリネズミが健常者と障害者を代表するマスコットとして両大会で採用され、世界でも先駆的な取組であった（図表1-22）。

図表1-22 カナダの障害者スポーツの主な歴史

年	歴史的事項（スポーツ）	歴史的事項（障害者政策・スポーツ政策）
1940～	車椅子バスケットボールチームの発足 ・モントリオールとバンクーバーを中心に車椅子バスケットボールを普及	
1953	ストック・マンデビル大会出場 ・モントリオール車椅子バスケットボールチームが出場	
1968	テルアビブパラリンピック出場 ・パラリンピックに初めて車椅子選手（22人）を派遣	
1981	カナダ障害者スポーツ団体連盟の設立 ・障害者スキー、切断者スポーツ、視覚障害者スポーツ、車椅子スポーツの4団体を統合して設立	
1985		<カナダ人権法（Canadian Human Rights Act）> 制定 ・障害者に対する差別を禁止
1987	障害者スポーツ大会「Foresters Games」開催 ・1987年から1993年まで、カナダ障害者スポーツ団体連盟が主催	
1993	カナダパラリンピック委員会へ名称変更 ・カナダ障害者スポーツ団体連盟がパラリンピック委員会へ名称変更	
2002		<カナダスポーツ政策2002（Canadian Sport Policy 2002）> 策定 ・「スポーツ参加の拡充」「競技力の向上」「力量の強化」「連携の促進」の4つを政策目標に掲げている ※見過ごされがちなグループに対するスポーツ参加機会の提供として、女性、少数民族、障害者等のスポーツ参加について明記
2003	2010バンクーバーパラリンピックの招致成功 ・バンクーバー及びウィスラーにて冬季大会の開催が決定	
2004		<カナディアン・スポーツ・フォー・ライフ（Canadian Sport for Life：CS4L）> 特別施策承認 ・カナダのスポーツ参加の推進、健康促進、競技力向上などを旨とする生涯スポーツ振興の中心を担う施策が承認
2006		<障害者のためのスポーツ政策（Policy on Sport for Persons with a Disability）> 策定 ・障害者特有のスポーツ参加における障壁を取り除き、障害者スポーツの発展に向けた方策を提示
2009	パラパンアメリカン競技大会の招致成功 ・パラパンアメリカン競技大会2015のトロント招致に成功	
2010	バンクーバーパラリンピックの開催 ・バンクーバー冬季パラリンピックを開催し、メダルランキング3位に入る	
2012		<カナダスポーツ政策2012（Canadian Sport Policy 2012）> 策定 ・カナダスポーツ政策 2002を引き継ぐ形で策定
2015	トロントにてパラパンアメリカン競技大会2015を開催 ・弱視の動物・ハリネズミが健常者と障害者アスリートの両方を代表するマスコットとして採用された	

参考：Canadian Paralympic Committee ウェブサイト（2015）
 笹川スポーツ財団「スポーツ政策調査研究報告書」（2011）等より作成

(2) 障害者スポーツの認知度向上とインクルージョン

カナダにおける障害者スポーツの認知度を高めたのは、1980年代、義足のランナー、テリー・フォックスと車椅子の陸上選手、リック・ハンセンの活躍であった。

【テリー・フォックス（1958～1981年）】

18歳で骨肉腫となり、右足を切断したテリーは、自身が入院時に子供ががんで苦しんでいる状況を目の当たりにし、がん研究資金を募るために、「希望のマラソン（Marathon of Hope）」を1980年から開始した。ニューファウンドランド州セント・ジョンズからオンタリオ州サンダーベイまでの5,373kmを143日間かけて、毎日フルマラソンと同じ距離（約42km）を義足で走り続けた。目標はバンクーバー島のポートレンフレューまでの8,000kmの完走と100万ドルの募金を集めることだったが、挑戦の途中、肺への転移が見つかり、完走できずにこの世を去った。その後、彼の遺志を継ぎ、テリー・フォックス財団が設立された。現在では世界中で「Terry Fox Run」が開催され、6億5千万ドル（約590億円）の募金が集まっている。日本では、カナダと姉妹都市関係を結んでいる北海道の26自治体が北海道テリー・フォックス・ラン実行委員会を立ち上げ、毎年開催している。2015年度は、札幌にて250人が参加して実施された。テリー・フォックスは、バンクーバーオリンピック・パラリンピックの開閉会式会場となったBCプレイス・スタジアム（BC Place Stadium）前に銅像が建てられるなど、バンクーバーにおける障害者スポーツの象徴となっている。

【リック・ハンセン（1957年～）】

15歳の時、事故により脊髄損傷を負い、車椅子生活となった。かつてBC州車椅子スポーツ協会（後述）の車椅子バスケットボールチームに所属していたが、最終的に陸上競技の選手として1980年アーネムと1984年アイレスベリーパラリンピックに出場したほか、数々の国際大会に出場し、多くのメダルを獲得した。友人であるテリー・フォックスに触発され、1985年には活動資金を得るため、「Man in Motion World Tour」を開始した。障害者が持つ身体的・精神的能力を証明し、地域の障害者が住みやすい環境になることを望み、車椅子で世界34か国を旅した。国内の障害者スポーツの認知度向上に多大な貢献をし、1988年にリック・ハンセン財団を設立した。

テリー・フォックスとリック・ハンセンの尽力により、連邦政府は徐々に健常者と障害者のスポーツのインクルージョンに取り組む始め、1980年代後半には、中央スポーツ組織に障害者とのインクルージョンを働きかけた。これに対して、最初に手を挙げたのがカナダ水泳連盟であった。カナダ水泳連盟より遅れて約10年後の1997年には、カナダ陸上競技連盟もインクルージョンに取り組むはじめ、車椅子アスリートを強化対象として位置付けた。2002年には切断、視覚障害、脳性麻痺のアスリートの強化を開始した。連邦政府の補助金の獲得に向けてインクルージョンを推進する戦略が奏功し、中央スポーツ組織レベルでは統合が行われた。しかし、現時点では、州及び地域レベルでのスポーツ団体の統合までには波及していない。

(3) 障害者のスポーツに関する施策

1) フィジカルリテラシーとは

カナダでは、生涯を通じてスポーツに取り組む、幼少期にフィジカルリテラシー（Physical Literacy）を身につけることが必要不可欠とされている。生涯スポーツの特別施策であるカナディアン・スポーツ・フォー・ライフ（Canadian Sport for Life：CS4L）によると、フィジカルリテラシーは、「基本的な運動スキルと基本的なスポーツスキルを身に付けること（the mastering of fundamental movement skills and fundamental sport skills）」と定義される。興味をもった特定のスポーツに取り組むのではなく、

基本的な運動スキルを習得させるために学校体育の教材やプログラム開発の基礎となっている概念である。

2) 障害者のスポーツに関連する代表的な施策・計画

歴史や文化、地理など多様な背景が影響し、カナダでは、「ジェンダー平等のための政府計画（The Federal Plan for Gender Equality 1975）」「インディアン法（Indian Act 1985）」「移民・難民保護法（Immigration and Refugee Protection Act 2002）」を制定し、女性・先住民・移民を含めた平等政策に焦点を置いてきた。障害者のスポーツに関連する代表的な施策・計画としては、「カナダスポーツ政策」 「CS4L」 「障害者のためのスポーツ政策」の3つが挙げられる。スポーツ参加の推進、健康促進、競技力向上などを目指す生涯スポーツ振興の中心を担う施策が、「CS4L」（2004年承認）である。2010年バンクーバー大会招致成功を契機に、2005年、CS4Lの一環として「長期競技者養成モデル（Long-Term Athlete Development Model：LTAD Model）」を開始した（図表1-23）。

図表1-23 障害者のスポーツに関する政策

年	名称・概要	障害者スポーツ施策・事業の展開
2002	カナダスポーツ政策 2002 (Canadian Sports Policy：CSP)	<ul style="list-style-type: none"> 2005年、CS4Lを具現化するためのプログラム「長期競技者養成（Long-Term Athlete Development：LTAD）モデル」を開発。 ：障害者版も開発 ：パラリンピックに限らず、スペシャル・オリンピックス及びデフリンピックの有識者も開発に貢献
	<ul style="list-style-type: none"> スポーツは性別、出身、障害の有無に関わらず、カナダ人の多様性を尊重した包括的なものにするべきであると定めている 	
2004	カナディアン・スポーツ・フォー・ライフ (Canadian Sport for Life：CS4L)	<ul style="list-style-type: none"> スポーツカナダのプログラム・事業は、LTAD及び障害者のためのスポーツ政策を基本に企画・検討・実施される
	<ul style="list-style-type: none"> スポーツカナダ（民族遺産省スポーツ局）の特別施策 カナダのスポーツ参加の推進、健康促進、競技力向上などを目指す生涯スポーツ振興の中心 	
2006	障害者のためのスポーツ政策 (Policy on Sport for Persons with a Disability)	<ul style="list-style-type: none"> 各州・準州の方針を尊重しつつ、スポーツ関連団体間の協力関係の強化を促進 連邦政府から資金援助を得るため、中央競技団体（National Sport Organization：NSO）は、当該スポーツ版LTADモデルを作成が義務付けられた 幼少期のフィジカルリテラシーの取得を推奨し、障害児を含む子ども達のフィジカルリテラシーの習得がNSOを通じて図れる仕組みを構築 競技種目別に、また障害種別、先天性・後天性別にLTADモデルの作成を促進
	<ul style="list-style-type: none"> 2005年以降、「スポーツカナダの先住民のスポーツ参加に関する法律（Sport Canada's policy on aboriginal peoples' participation in sport 2005）」や「少女・女性のためのスポーツ政策（Actively Engaged：A Policy on Sport for Women and Girls 2009）」を策定しており、同政策は障害者に特化した政策 	
	<ul style="list-style-type: none"> 障害者のスポーツ参加における環境的、組織的、社会的、個人的障壁を軽減させ、最終的に取り除くことの重要性を説く 関連組織に対して、障壁の軽減・除去を義務付けた 	
2012	カナダスポーツ政策 2012 (Canadian Sports Policy：CSP)	
	<ul style="list-style-type: none"> カナダスポーツ政策2002を引き継ぐ形で、「カナダスポーツ政策2012（Canadian Sports Policy 2012）」を制定 	

参考：笹川スポーツ財団「スポーツ政策調査研究報告書」（2011）等より作成

【長期競技者養成モデル (LTAD Model)】

LTAD モデルでは、アスリートとしての育成方法は幼児期から成人期の発達過程によって異なることを前提としており、保護者、コーチ、統括団体等に対して、幼児期からの投げる、蹴る、跳ぶ等の基本動作の習得（フィジカルリテラシーの発達）の重要性を説いている。モデルでは、発達過程を①導入 (Active Start) ②基礎づくり (Fundamentals) ③習得 (Learn to Train) ④トレーニング (Train to Train) ⑤競技 (Train to Compete) ⑥勝利 (Train to Win) ⑦生涯 (Active for Life) の、7つの成長段階に分類した活動指針が示された。また、障害者にはさらに「気づき (Awareness)」「最初の1歩 (First Involvement)」の2段階を設けている。2006 年以降、各統括団体が LTAD モデルの策定を開始し、障害種別、受傷時期別（先天性又は後天性）、性別のモデルの策定も推し進められている（図表1-24）。

図表1-24 長期競技者養成モデル概要

段階		年齢	ポイント
①	導入 (Active Start)	0～6歳 (男女)	<ul style="list-style-type: none"> 遊びを中心に取組、体を動かす楽しさを学ぶ 敏捷性、バランス、コーディネーション、スピードを習得
②	基礎づくり (Fundamentals)	6～9歳 (男) 6～8歳 (女)	<ul style="list-style-type: none"> クラブ等で組織化された活動に参加し、基本動作を習得 楽しさを重視
③	習得 (Learn to Train)	9～12歳 (男) 8～11歳 (女)	<ul style="list-style-type: none"> より組織化された練習環境で多様なスポーツに参加 特定の競技に特化するのではなく、一般的な運動・スポーツスキルの習得を目指す
④	トレーニング (Train to Train)	12～16歳 (男) 11～15歳 (女)	<ul style="list-style-type: none"> 有酸素運動を取り入れ、総合的な運動スキルの強化
⑤	競技 (Train to Compete)	16～23歳 (男) 15～21歳 (女)	<ul style="list-style-type: none"> 特定の競技 (又はポジション) に特化し、国内・国際大会出場に向けてパフォーマンス強化
⑥	勝利 (Train to Win)	19歳以上 (男) 18歳以上 (女)	<ul style="list-style-type: none"> 表彰台に立つことを目標とした個人の身体的・心理的機能の強化
⑦	生涯 (Active for Life)	全ての年代	<ul style="list-style-type: none"> 競技スポーツから生涯スポーツへ移行する手助け
*	気づき (Awareness)	全ての年代	<ul style="list-style-type: none"> 障害受傷後、スポーツ参加機会やパスウェイに関する情報を提供し、自身のアスリートとしての可能性を気づかせる 障害者と関わる人々 (保護者、医療福祉従事者等) に対する周知・広報
*	最初の1歩 (First Involvement)	全ての年代	<ul style="list-style-type: none"> 障害者が初めてスポーツに参加する際、「良い経験」となるよう工夫する スポーツ指導を行うコーチは、オリエンテーションや教育プログラム開発を通じて障害児・者にとって楽しいスポーツ環境の提供に努める

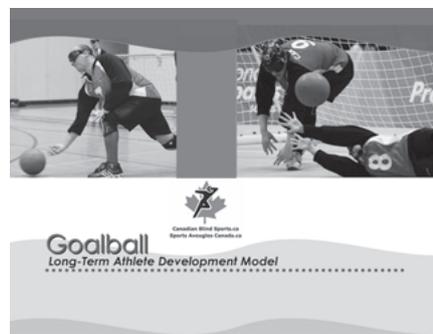
参考：Sport for Life Society ウェブサイトより作成 (2016)

文部科学省「スポーツ政策調査研究 (海外のスポーツ基本計画に関する調査研究)」(2013)

【カナダ視覚障害者スポーツ協会のゴールボール LTAD Model】

視覚障害者には、生まれつき（先天性）あるいは病気や怪我などにより視覚障害を受傷した者（後天性）がいる。全ての年代に必要とされる「気づき（Awareness）」では、スポーツ団体や指導者が視覚障害者にもスポーツをする権利と機会があることを教えることが重要である。「最初の一步（First Involvement）」では、ゴールボールは広く門戸が開かれたスポーツであることを伝え、身体的・知的・精神的能力の評価を行い、適切な能力レベルから競技への参加を支援することが求められる。

なお、視覚障害者が新たにスポーツ技能を習得し、ゴールボールアスリートとして成長するためには、障害受傷年齢に関わらず「③習得」「④トレーニング」「⑤競技」の3段階を踏む必要があるとしている。ゴールボールの「③習得」では、投げる、パスする、ブロックする等の基本動作の練習を導入するとともに、試合形式でコート内での体の動かし方、ルール、試合における戦略を学ぶ。



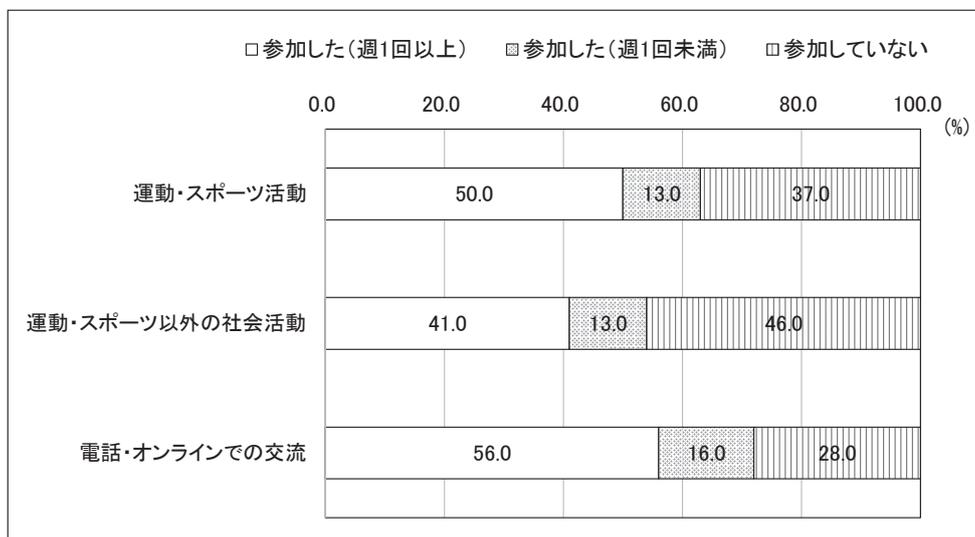
写真：LTAD モデル - ゴールボール選手育成のためのガイドライン（CBSA ウェブサイトより）

(4) 障害者のスポーツ実施状況

カナダにおける障害者の運動・スポーツ実施に関する全国規模のデータは公表されていない。一方で、カナダ統計局は、日常生活に何らかの影響を与える障害・疾患がある障害児・者に対して調査「Participation and Activity Limitation Survey」（2006）を実施している。この調査は、国内の障害者人口、障害の程度、用器具の利用、日常生活における障壁及び支援内容、雇用、教育、レクリエーション活動の把握を目的としている。

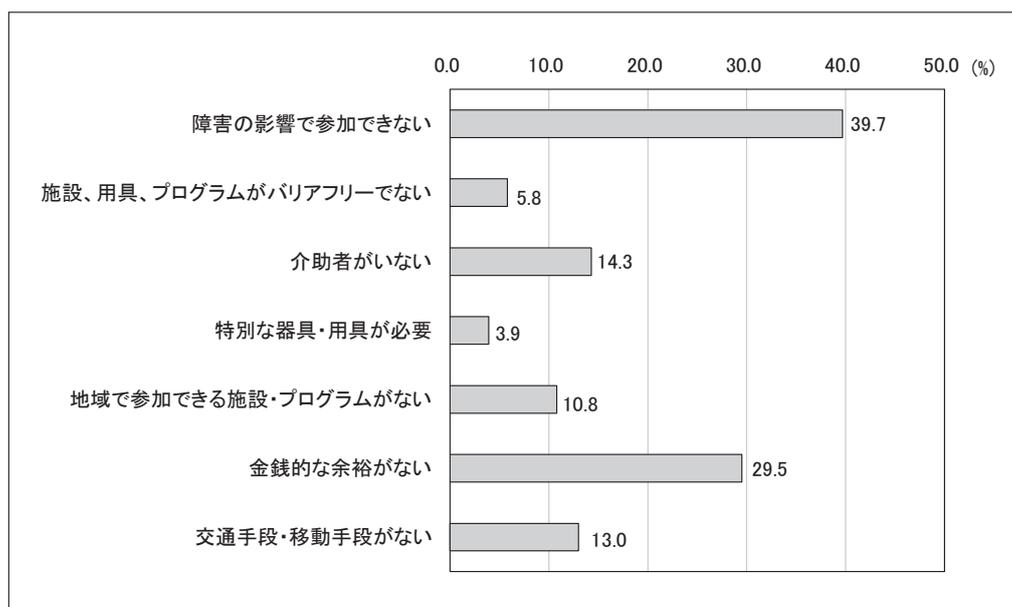
5～14歳の障害児（125,000人、〈身体障害19.0%、身体障害以外の障害24.0%、身体障害との重複障害57.0%〉）の運動・スポーツを含む社会活動への参加実態についてみると、週1回以上の実施率は「運動・スポーツ活動」が50.0%、「運動・スポーツ以外の社会活動」が41.0%、「電話やオンラインでの友人との交流」が56.0%となっている（図表1-25）。社会活動への参加の障壁についてみると、約4割が「障害の影響で参加できない」、約3割が「金銭的な余裕がない」となっていた（図表1-26）。

図表1-25 障害者の週1回以上のスポーツ参加率（5～14歳）



出典：Statistics Canada 「Participation and Activity Limitation Survey」（2006）を翻訳

図表1-26 障害者のスポーツを含む社会活動参加の障壁



出典：Statistics Canada 「Participation and Activity Limitation Survey」(2006) を翻訳

注) Participation and Activity Limitation Survey は、2006年の国勢調査(2006 Census of Population)に回答した障害児・者約48,000人に実施した質問紙調査である。本調査での「運動・スポーツ活動」は、コーチやインストラクターと実施するダンス、サッカー等の運動・スポーツ活動を指す。

(5) 障害者スポーツ所管省庁の変遷

障害者のスポーツは、スポーツの所管省庁である1993年設置の民族遺産省(Canadian Heritage)において、一元的に推進されている。カナダでは、特定の分野において特命大臣が配置されている。例えば、芸術、スポーツ、女性の政策分野を所管する民族遺産省には、「民族遺産大臣(Minister of Canadian Heritage)」「スポーツ・障害者大臣(Minister of Sport and Persons with Disabilities)」「女性の地位担当大臣(Minister of Status of Women)」がいる。スポーツ関連施策の責任を負う「スポーツ・障害者大臣」は、2015年11月の政権交代によって「スポーツ大臣」から名称が変更されている(図表1-27)。

当該職の公約には、「スポーツ大臣(Minister of Sport)として民族遺産大臣を支え、障害者大臣(Minister of Persons with Disabilities)として家庭・子供・社会開発大臣(Minister of Families, Children and Social Development)と連携すること」と明示されており、障害者の社会参加の促進及び環境充実に向け、省を越えた連携・体制強化を図ることを目的として設置されたと言える。初代スポーツ・障害者大臣には、パラリンピックの水泳競技(視覚障害部門)に出場経験のあるカーラ・クォルトロー(Carla Qualltrough)が就任した。

2015年11月、カーラ・クォルトローがスポーツ・障害者大臣に就任したことによって、障害者のスポーツに関わる法律や政策の立案・策定が積極的に進められている。例えば、「障害を持つカナダ人法(Canadians with Disabilities Act)」の成立に向けて、家庭・子供・社会開発省と連携した検討が進められている。クォルトローの他、上院議員にパラリンピックの車椅子陸上で合計14個の金メダルを獲得したシャンタル・プチクレール(Chantal Petitclerc)がいる。

図表1-27 スポーツ所管省庁と大臣職名

設置・再編年	省庁名	大臣
1993	民族遺産省 (Canadian Heritage)	民族遺産大臣 (Minister of Canadian Heritage)
		スポーツ・障害者大臣 (Minister of Sport and Persons with Disabilities)
		女性の地位大臣 (Minister of Status of Women)

参考：Canadian Heritage ウェブサイト（2016）より作成

(6) 障害者手帳／IDカードの活用

カナダには日本の障害者手帳に該当する制度はなく、障害者は利用するサービス毎に各省庁にサービス申請を行い、障害者認定を受ける必要がある。一方で、視覚障害者については、全国組織であるカナダ視覚障害者協会（Canada National Institute for the Blind：CNIB、後述）が独自に視覚障害者IDカードを発行しており、カード保持者はスポーツイベントや大会によって、参加する際に割引を受けることができる（図表1-28）。

図表1-28 障害者手帳／IDカードの活用

手帳・カード	対象となる障害者	サービス内容例
視覚障害者IDカード (CNIB ID Card)	良い方の目の視力が0.1以下又は 視野が20度以内の者	スポーツイベント・大会等参加における割引

参考：寺嶋彰「身体障害者手帳に関する調査研究」（2004）
Canada National Institute for the Blind（2015）

2.2 地域における障害者のスポーツ・レクリエーション活動への参加

地域のスポーツクラブが市民の憩いの場として受け入れられている状況において、「カナダ人権法 (Canadian Human Rights Act)」(1985) による障害者差別の禁止、「カナダスポーツ政策 (Canadian Sports Policy)」(2002) でのスポーツの権利の保障など、障害者に関わる法律や政策の影響もあり、地域の障害者の環境整備が積極的に進められている。

(1) ブリティッシュ・コロンビア州のコミュニティセンター

ブリティッシュ・コロンビア州 (BC 州) は、健常者と障害者が一緒にスポーツをする場として、地域のコミュニティセンター・レクリエーションセンターの利用を推奨している。バンクーバー市に27、リッチモンド市には8つのセンターがあり、障害者も参加可能なプログラムを提供している。バンクーバー市では、ホッケー、バスケットボール、ボッチャ、ラグビー、サッカー、ヨット、水上スキー、ゴルフなど、様々なスポーツを気軽に楽しむ環境づくりを行っている。

バンクーバー市内のヒルクレスト・アクアティック・センター (Hillcrest Aquatic Centre)、テンプレトン・プール (Templeton Pool)、ケンジントン・プール (Kensington Pool) の3つの施設では、障害児・者のための水泳教室を開講している。また、市内の障害者養護施設・ジョージ・ピアソン・センター (George Pearson Centre) に併設されているリハビリテーション用プールは、カナダ車椅子スポーツ・レクリエーション協会の創設者であるスタン・ストロンジ (Stan Stronge) にちなんで、「スタン・ストロンジ・リハビリテーションプール (Stan Stronge rehabilitation pool)」と命名されている。脊髄損傷や切断などの肢体不自由者に幅広く利用されている。

(2) リッチモンド・オリンピック・オーバル (Richmond Olympic Oval)

2008年設立のリッチモンド・オリンピック・オーバル (Richmond Olympic Oval) は、フィットネスジム、スポーツコート (バドミントン、バレーボール、バスケットボール、ウィルチェアラグビーなど)、室内サッカーコート、卓球台などが設備されている。2010年バンクーバーオリンピックでは、スピードスケートの会場として使用された。また、同年、同会場でウィルチェアラグビー世界選手権大会が開催され、その後、地域の人が気軽に利用できるスポーツ施設に生まれ変わり、競技スポーツと地域スポーツの融合が実現した。

バンクーバーパラリンピックのレガシー (community legacy) として、現在は複数の車椅子で利用が可能なエレベーターが設置され、BC州ウィルチェアラグビーチームの練習のために毎週コートの貸し出しが行われている。



写真：オリンピック会場となったオーバルの外観



写真：ウィルチェアラグビーチームの練習風景

(3) パラリンピックレガシーとしてのプレイグラウンド（公園）の建設

障害の有無にかかわらず全ての子供が利用できるプレイグラウンド（公園）が、リック・ハンセン財団、2010レガシーズ・ナウ（2010 Legacies Now）、（株）コカ・コーラ等の支援により建設された。

公園内は、段差を排除し芝生を植えて緑地空間を拡充するなど、様々な目的・理由で来場する子供・保護者が利用しやすい環境を用意している。

例えば、利用者が車椅子に座りながらも砂遊びができるように座高を低くした卓上砂場を設計したり、またブランコにより安定した体勢で乗るために座面を広く設計している。BC州リッチモンド、バンクーバー、ウイスラーに建設されたこれらのプレイグラウンドは、バンクーバー公園・レクリエーション委員会が主導した2010年バンクーバー大会のレガシーと言える。



写真：障害児も利用しやすい公園
(The Vancouver Sun ウェブサイトより)

2.3 学校における障害児・者の体育・スポーツ活動への参加

(1) カナダの障害児の学校教育

1982年、憲法に盛り込まれた「権利と自由のカナダ憲章（Canadian Charter of Rights and Freedoms）」では、身体障害者、知的障害者、精神障害者の平等を保障し、障害を理由とする差別の禁止が記載された。憲章によって認められた権利の中では、各州教育法において、州民が教育を受ける権利の保障と学習レベルに合わせた教育を見守る児童生徒に無償提供することが義務づけられた。

カナダは、広大な国土、文化の多様性、司法制度や言語の二元性などに配慮する形で連邦制を採用しており、連邦政府と州政府・準州政府が統治している。連邦政府には、日本の文部科学省に該当するような教育省は設置されておらず、教育は各州・準州に設置された教育省に委ねられている。1960年代以降、ヨーロッパの影響を強く受けるカナダ東部に位置する州（ケベック州、ノバスコシア州、ニューブランズウィック州等）を中心に障害児教育制度の構築が推し進められた。一方で、アルバータ州やBC州における障害児教育の法整備が行われたのは、1980年代以降であった。1990年代に入ると、インクルーシブ教育理念が広く浸透しはじめたことで、それまで普通学校で学んでいた児童生徒の中にも、実際は特別教育を必要としている子供が多くいることが明らかとなった。現在では、イギリス同様、カナダにおいても、障害の有無にかかわらず、学習に困難のある児童生徒は「Special Educational Needs：SEN」を有すると判断される。カナダ政府は、各州の教育省に対して、1人ひとりに「Individual Learning Plan：ILP（個別の学習計画）」を立てることを義務付けている。

カナダ統計局「Participation and Activity Limitation Survey」（2006）によると、日常生活に支障がある障害児（5～14歳）は173,180人（同年齢人口4.6%）で、その内、特別教育を必要とする障害児は約4割であった。しかし、特別教育を必要とする児童生徒数は州によって異なっており、BC州では州の障害児の約4割、プリンスエドワード島では約2割が特別教育を必要としており、州により障害児教育の実態は大きく異なっている。

(2) 障害児の学校体育

前述のとおり、各州・準州に設置された教育省が学習指導要領を定めている。BC州では、幼稚園から中学生までの学校体育の時間数は、カリキュラム全体の10%となっている（図表1-29）。なお、SENを有する児童生徒については、各自のILPに沿って、体育授業への配慮・対策が必要と明記されている。

図表1-29 BC州の体育の時間数

学年	時間数（目安）
幼稚園	・1年間のカリキュラムの10% - 各自治体のニーズに合わせ、約45～50時間（年間）
小学1年生～中学1年生 （1～7年生）	・1年間のカリキュラムの10% - 約90～100時間（年間）
中学2年生、3年生 （8年生、9年生）	
高校1年生 （10年生）	・115～120時間分の指導要素が、卒業のための4単位取得に必要
高校2年生、3年生 （11年生、12年生）	・必要時間数についての記載は特になし

注）障害児・者の体育については、各児童生徒のILPに沿った配慮が必要と記載されている
参考：BC Ministry of Education「Physical Education k to 7」（2006）等より作成

1980年代以降、「権利と自由のカナダ憲章」などの影響により、国内では特別学校の廃止が進み、統合教育が進められた。1980年代、全国に先駆けてアルバータ州とサスカンタ州の特別学校が閉鎖されている。その後、特別学校の閉鎖により、普通学校の体育の授業で、見学や記録係、図書館で別の課題に取り組むなど、一緒に授業に参加できない障害児がいる実態が明らかとなった。そうした現状に危機感を抱いたカナダパラリンピック委員会（CPC）は、小・中・高等学校の児童生徒を対象にインクルーシブな授業づくりのための資料提供やパラリンピックスクールウィーク（Paralympic Schools Week）を開催している。また、リック・ハンセン財団の「リック・ハンセン・スクールプログラム（Rick Hansen School Program）」（後述）では、スポーツに限らず障害、アクセシビリティ、インクルージョンに対する理解を深めるため、レッスンプラン、ガイドブック、動画等のオンライン教材を提供する。

1) パラリンピック・ファンダメンタル・フィジカルリテラシー・リソース（Paralympic FUNdamentals Physical Literacy Resource）

CPCは、2014年8月、健常児と障害児が一緒に参加できるインクルーシブな体育指導の手引きとして、ボッチャ、シッティングバレーボール、ゴールボール、陸上競技のスポーツ組織と協力して無料のオンライン教材「パラリンピック・ファンダメンタル・フィジカルリテラシー・リソース（Paralympic FUNdamentals Physical Literacy Resource）」を開発した。カナダでは、各州に設置されている教育省が指導要綱を定めている。そのため、この教材は障害の有無にかかわらず、全ての児童生徒が体育に参加できるよう、各州の指導要領に合わせたカリキュラム構成、授業評価方法を学校に提供し、障害児にはスポーツを楽しんでもらい、健常児には多様な障害者スポーツに触れてもらうことを目的にしている。2013年に、7州42の小学校で試験的に導入された後、2014年度には海外にも拡がり、カナダを含む21か国の700学校／組織に活用された。

2) パラリンピックスクールウィーク（Paralympic Schools Week）

バンクーバー大会の開催を契機に、学校でのインクルーシブな授業づくりやパラリンピックスポーツの周知・啓発を目的に2010年と2011年に試験的に導入された。パラリンピック開催年は、多くの児童生徒に障害者スポーツに興味を持ってもらうため、大会前に開催した。2014年度は、ソチ大会（3月）の前月である2月、2015年度は5月、2016年度は4月に開催した。参加には各学校の担任教員や体育教員による事前登録が必要であり、2016年度は約300の学校が参加した。パラリンピックスクールウィークは6つのイベントに分類され、学校が児童生徒のニーズと希望に合わせてイベントを選択する（図表1-30）。

図表1-30 パラリンピックスクールウィークにおけるイベント内容

テーマ		概要
A	アクティブになる (Get Active)	<ul style="list-style-type: none"> Paralympic FUNdamentals Physical Literacy Resource (無料オンラインツール) を提供 陸上、ボッチャ、ゴールボール、シッティングバレーボールの4競技で健常児と障害児が一緒に参加できるアクティビティを計画
B	インスパイアする (Inspire Brilliance)	<ul style="list-style-type: none"> 教員に対して、教室又は体育館で導入できるレッスンプランを提供 運動・身体活動に限らず、座学でのパラリンピックスポーツ、用器具、パラリンピック競技大会、カナダ代表チームなどについての学習も含まれる
C	応援する (Celebrate)	<ul style="list-style-type: none"> パラリンピックスポーツとパラリンピックムーブメントを応援 ポスター作製、カナダの国の色を示す赤・白の洋服の着用、パラリンピアンとの触れ合いなど
D	学ぶ (Discover)	検索ツールで以下の情報の検索が可能 <ul style="list-style-type: none"> パラリンピック競技大会、カナダの障害者スポーツの歴史 パラリンピック競技、障害、クラス分け カナダのパラリンピアン
E	促す (Encourage Excellence)	検索ツールで以下の情報の検索が可能 <ul style="list-style-type: none"> カナダのパラリンピアン 自分が参加したいと感じる種目 近隣のスポーツクラブ
F	ファンドレイジング (Foundation) # CoinsForCanada	<ul style="list-style-type: none"> 学校での募金活動 (パラリンピックスクール週間に教室や学校で募金活動を行い、CPCへ提供する。障害児・者も隔たりなくスポーツに参加できるよう、CPCのプログラム運営や用具の購入費に充てることを目的としている)

参考：Canadian Paralympic Committee (2016) より作成

3) リック・ハンセン・スクールプログラム (Rick Hansen School Program)

平等社会、障害者の権利、アクセシビリティ（移動、旅行、就職等）などのテーマを包含したレッスンプラン、書籍、講演等の情報をオンラインで公開している。主に行政関係者、教員、児童生徒を対象としており、会員登録は無料である。教室指導に関するヒント集 (Teaching Tips) やディスカッションテーマ (Discussion Questions) がテーマ毎にまとめられており、各学校において作成される指導計画等の参考資料として広く活用されている。

Discussion Questions

- What does accessibility mean?
- What does physical accessibility mean?
- How are public spaces becoming more accessible?
 - Ramps, parking spaces, washrooms for persons who use wheelchairs
 - Braille on public signs, walk signal noises
 - Fire alarm flashing lights
- What spaces do you think are still not very accessible?
 - Think about your daily routines, the recreational activities you enjoy, and the places you have visited on vacation
 - What terrain, transit, and activities would be difficult if you had a disability?

写真：「バリアフリーとは何か」「公共施設をバリアフリーにするにはどのようにすべきか」など、ディスカッションテーマを提供するヒント集(リック・ハンセン財団ウェブサイトより)

(3) 学校での知的障害児・者のスポーツ参加環境創出へ向けた取組

学校における知的障害児・者のスポーツ参加環境整備に向けた特徴的な事例として、スペシャル・オリンピックス・アルバータ（Special Olympics Alberta : SOA）とアルバータ学校体育協会（Alberta Schools' Athletic Association : ASAA）による取組がある。

【スペシャル・オリンピックス・アルバータとアルバータ学校体育協会のユニファイドスポーツ】

ユニファイドスポーツは、健常者と知的障害者が1つのチームとして練習や大会に参加し、人間性や社会性を培うことを目的としたスペシャル・オリンピックスの主要プログラムである。1980年設立のスペシャル・オリンピックス・アルバータ（Special Olympics Alberta : SOA）は、スペシャル・オリンピックス・カナダの州組織としてアルバータ州の知的障害児・者のスポーツを振興する組織である。冬季競技が盛んな国であることから、カーリング、スノーシュー（雪上ハイキング）を含む18の種目を中心に、様々なスポーツ参加と競技機会を提供している。

アルバータ州では、障害者の体育の授業以外の身体活動の機会が限られていた現状を受けて、SOAとASAAが連携し、2016年2月、アルバータ州のビショップ・マクナリー（Bishop McNally）高校でユニファイドスポーツを試験的に導入した。ビショップ・マクナリー高校では、月曜日と木曜日の昼休みの時間を活用し、バスケットボールの練習を行っている。特別学級に在籍する知的障害がある生徒約10名と同校のバスケットボールクラブに所属する障害のない生徒が参加する。障害の有無を越えてチームを組むことで、積極的な障害者理解と生徒間の交流につながっている。



写真：ビショップ・マクナリー高校の健常と知的障害の学生が円陣を組む（The Alberta Teachers Association より）

(4) 学校での視覚障害児・者のスポーツ参加環境創出へ向けた取組

1) カナダ視覚障害者スポーツ協会（Canadian Blind Sports Association : CBSA）

1976年設立のカナダ視覚障害者スポーツ協会（Canadian Blind Sports Association : CBSA）は、バンクーバーに本部を置き、国内の視覚障害児・者に対してスポーツの普及活動を行っている。9～90歳までの幅広い年齢層に合わせたスポーツキャンプ、体験会、トライアウトなどを開催している。また、ゴールボールの統括団体として普及・強化活動も行っており、普通学校においてゴールボールの導入教室を開催している。

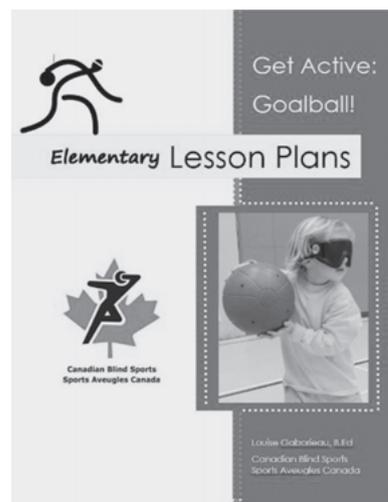
2) 視覚障害児・者の学校教育環境

視覚障害の特別学校は、オンタリオ州の W.Ross Macdonald 校のみである。全寮制の同校には、全国の重複視覚障害児・者（約190人の児童生徒の内、30人が聴覚障害との重複障害児・者）が在籍している。一般的に多くの視覚障害児・者は、視覚障害児支援教員（Vision Teacher : VT）のサポートを受けて近隣の普通学校に通っている。

3) 学校でのゴールボールの普及活動「Get Active Goalball」

CBSA は、普通学校に通う視覚障害児・者の運動実施率が低く、肥満率が高くなっているという調査結果を受けて、2012年、ゴールボールを推奨する資料「Get Active Goal Ball」を小学校の教員向けに作成した。授業でのゴールボール導入に向け、ウォームアップからクロージングまで、ゴールボールの基本的な動き、ルール、指導方法、必要な用具等を細かく記したレスンプラン・マニュアルである。

このマニュアルは、国内外の教員に利用してもらうため、オンラインで無料公開している。また、CBSA のスタッフが直接学校を訪問し、教員を対象とした講習会を開催し、視覚障害児・者と健常児・者が授業の中で一緒に参加できるゴールボールの普及に努めている。



写真：ゴールボールレスンプラン
(CBSA ウェブサイトより)

4) 視覚障害児専門の巡回支援教員（Vision Teacher：VT）

BC 州では、約700人の視覚障害児が巡回支援教員（Vision Teacher：VT）の支援を受けて、普通学校に通っている。BC 州にある60学区のうち、49学区に合計70人（2015年9月現在）のVTが配置されており、学校数に応じて、VTの配置人数が決定される。101の公立小学校と19の公立中学校がある州内最大のサレー（Surrey）市には6人のVTがいる。州、学区、学校によって支援内容は異なるが、各VTが担当区の学校を訪問し、担当教員との相談や本人への特定の教科（体育を含む）の授業支援や個別指導を一对一で行っている。

CBSA は、ひとりでも多くの視覚障害児・者にスポーツの参加機会を提供することを目的に、保護者やVTと強い関係を構築している。VTで構成されるBC州視覚障害児支援教員協会（BC Vision Teachers' Association）は、全国会議を開催しており、CBSAも開催・運営で協力している。全国会議では、スポーツ・レクリエーション、フィジカルリテラシーに関する発表も行われている。2009年はアルバータ、2016年5月はバンクーバーで開催された。

2.4 病院・リハビリテーションセンターとの連携（視覚障害・肢体不自由）

(1) BC州の病院・リハビリテーションセンター

BC州では、地域の障害児・者が様々な形でスポーツに接することができるよう大学、研究機関と学術的提携を結ぶ病院・リハビリテーションセンターと連携している(図表1-31)。リハビリテーションセンターや病院退院後、地域で自立した生活を送るため、障害児・者に関する情報を病院、地域の当事者団体や障害者スポーツ団体が共有することで、障害の程度、生活環境などに応じたスポーツ機会を提供している。

図表1-31 BC州の病院・リハビリテーションセンターにおける障害者の運動・スポーツ支援

対象障害	対象年代	施設名	概要
肢体不自由 視覚障害	青少年	サニー・ヒル・小児センター (Sunny Hill Health Centre for Children)	<ul style="list-style-type: none"> BC州小児病院(BC Children's Hospital)が提供するサービスの1つ 身体障害、発達障害を中心に、0～19歳の障害児・者を対象に医療・リハビリテーションサービスを提供 視覚障害児・者の診断及び治療、言語発達支援、デイケアセンターや保育園との連携、幼稚園への入学支援 保護者にもカナダ視覚障害者協会(CBSA)の資料を提供し、スポーツへの理解・協力を促す
視覚障害	青少年	アレクサンドラ小児病院 (Queen Alexandra Centre for Children's Health)	<ul style="list-style-type: none"> 身体障害、精神障害、発達障害を中心に、子供・青少年を対象に医療サービスを提供 BC州バンクーバー市から離れた地域(ビクトリア島含む)に居住する視覚障害児・者に対する訪問支援等 「QA早期介入プログラム」では、ビクトリア島の眼科医と連携して、BC州全域の視覚障害児にサービスが行き渡るよう尽力
肢体不自由	障害児・者	GF・ストロング・リハビリテーション・センター (GF Strong Rehabilitation Centre)	<ul style="list-style-type: none"> 1994年に設立 BC州最大のリハビリテーション施設 ブリティッシュ・コロンビア大学と提携することで、州最先端のリハビリテーション研究・教育機関として機能 患者と家族と一緒にレクリエーションプログラムに参加することを推奨 水泳、エアホッケー、卓球などに加えて、絵画や陶芸などの文化活動も提供 BC州車椅子スポーツ協会(BCWSA)が入院患者のために、週1回体験会を開催

参考：各病院・リハビリテーションセンター提供資料及びウェブサイトより作成

(2) 視覚障害児のスポーツ振興における地域のネットワーク

【施設（リハビリテーションセンター）】

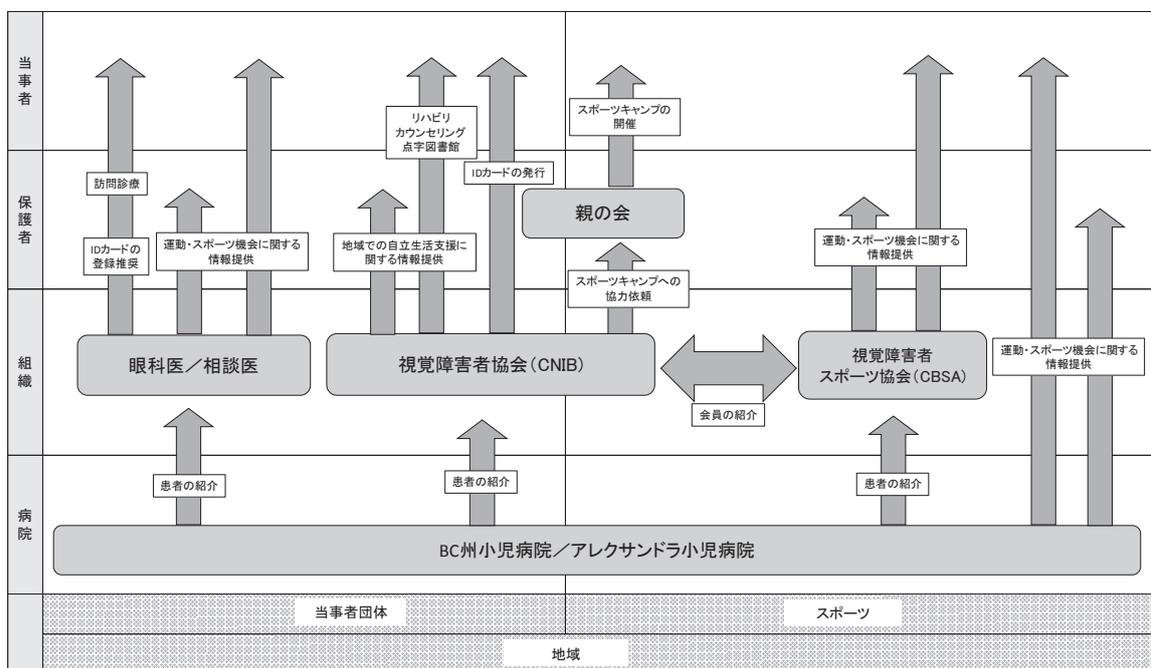
サニー・ヒル小児センター(Sunny Hill Health Centre for Children)は、BC州小児病院(BC Children's Hospital)が提供するリハビリテーションサービスの一つである。視覚障害児・者プログラムでは、0～19歳の視覚障害児・者を対象に、視覚障害の診断や治療を行うほか、家庭や学校で自立した生活を送るために生活訓練を行う。また、BC州全域に支援が行きわたるよう、アレクサンドラ小児病院がサニー・ヒル小児センターと連携し、地域の眼科医・相談医による訪問診療が行われる(図表1-32)。引

きこもりがちになる視覚障害児・者がより積極的に社会参加できるよう、サニー・ヒル小児センターとアレクサンドラ小児病院は、患者に対して視覚障害者 ID カードを発行している視覚障害者の当事者団体・カナダ視覚障害者協会（Canada National Institute for the Blind：CNIB）への会員登録を推奨している。

【地域（カナダ視覚障害者協会）】

カナダ視覚障害者協会（Canada National Institute for the Blind：CNIB）は、第一次世界大戦の傷痍軍人の社会復帰を支援するために、1918年に設立された慈善団体である。視覚障害に関する調査研究、教育、リハビリテーション、カウンセリング、点字図書館などのサービスを提供しており、視覚障害者スポーツ協会（CBSA）と同建物内に BC 州支部の事務所を構え、サニー・ヒル小児センターなどのリハビリテーションセンター、親の会、地域の眼科医とすぐに連絡・相談ができる関係を築いている。CNIB と CBSA の連携により、受傷時期にかかわらず、視覚障害児・者へのスポーツ参加の機会の提供が可能となる。

図表1-32 視覚障害児のスポーツ振興におけるネットワーク



(3) 肢体不自由者のスポーツ振興における地域のネットワーク

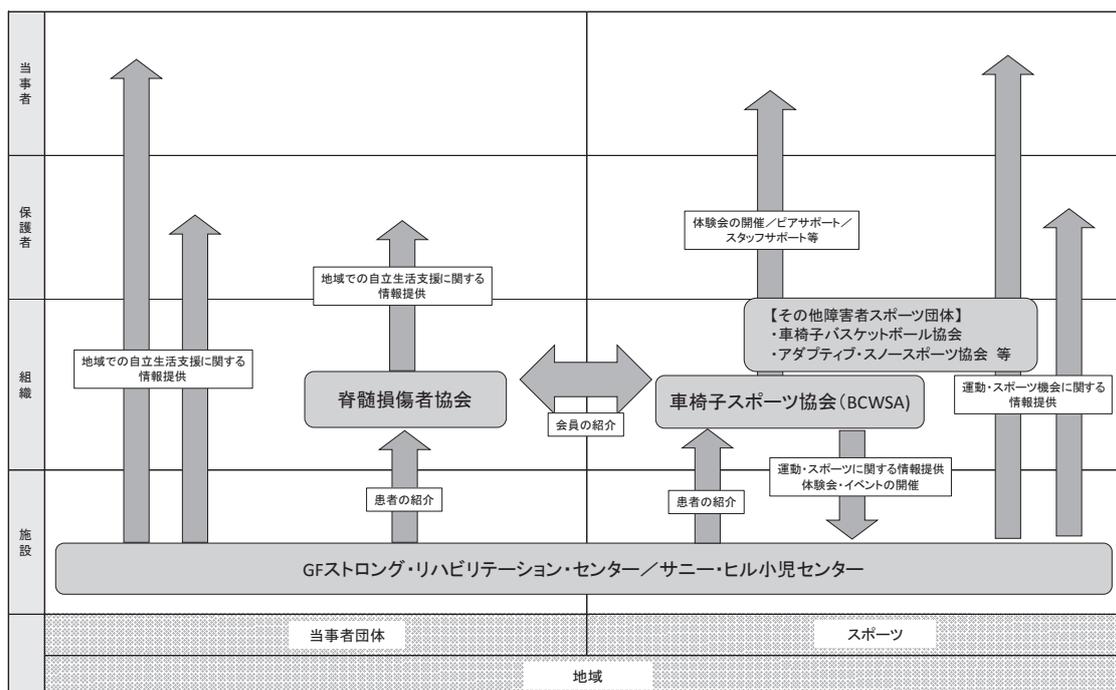
【施設（リハビリテーションセンター）】

BC 州の脊髄損傷者は、基本、受傷時期に応じて未成年はサニー・ヒル小児センター、成人は GF ストロング・リハビリテーション・センター（以下 GF ストロング）を受診する。1994年に設立された GF ストロングは、患者と家族と一緒にレクリエーションプログラムに参加することを推奨しており、BC 州車椅子スポーツ協会と連携し、スポーツ機会を提供している。また、退院後の地域でのより自立した生活を支援するため、病院と地域を結ぶ当事者団体である脊髄損傷者協会とも連携している（図表1-33）。

【地域（脊髄損傷者協会）】

脊髄損傷者協会（Spinal Cord Injury BC）は、BC 州居住の脊髄損傷者に対して、日常生活、教育、就労に関する支援を行う当事者団体で、BC 州車椅子スポーツ協会やそのほかの障害者スポーツ団体が事務所を置く建物の所有者でもある。同じ敷地内に当事者団体である脊髄損傷者協会と BC 州車椅子スポーツ協会の事務局があることで、肢体不自由児・者やスポーツ教室・イベント等の情報・リソースの共有が可能となる。

図表1-33 肢体不自由児・者のスポーツ振興におけるネットワーク



【BC 州車椅子スポーツ協会 (BC 州 Wheelchair Sports Association : BCWSA)】

1971年設立の BC 州車椅子スポーツ協会 (BC 州 Wheelchair Sports Association : BCWSA) は、ウィルチェアラグビー、車椅子陸上、車椅子テニスを中心に、地域からトップレベルまで多種多様なスポーツ機会を提供し、州の車椅子スポーツの普及促進・強化を図っている。冬季競技のプログラム提供においては、同じ敷地内に事務所を構える BC Adaptive Snowsports に専門的な指導をおおぎ、プログラムを作成している。また、前述のテリー・フォックスやリック・ハンセンが BCWSA のプログラムに参加したことで、国内の認知度も向上した。

BCWSA がプログラムコーディネーターとなり、1999年より開始された車椅子スポーツの普及プログラム「ブリッジング・ザ・ギャップ (Bridging the Gap)」は、カナダ全土で展開されている。バンクーバーパラリンピックの開催が決定した2003年以降は、州内のスポーツ振興体制強化のために設立された助成制度「レガシーズ・ナウ (Legacies Now)」から活動資金を得て実施している。年間を通してイベントや体験会が開催され、車椅子のレンタル、カウンセリングやピアサポートなど、プログラム内容は多岐にわたっている。例えば、GF ストロングでは、様々なスポーツイベントのために体育館などの付帯施設を開放し、個々の患者の興味や障害の程度に応じて参加に適した競技種目の提案・相談を行う。また、毎週火曜日は、GF ストロングと BCWSA が共同スポーツ体験会 (Have a Go Days) を開催し、体験から競技用車椅子の操作方法まで、患者のレベルや興味に応じたプログラムを実施している (図表1-34)。

図表1-34 ブリッジング・ザ・ギャップ実施事業

名称	内容	概要
ハブ・ア・ゴー・デイズ (Have a Go Days)	体験会	<ul style="list-style-type: none"> GF ストロングなどの施設や地域で体験会を開催 競技用車椅子の操作から、より競技性の高い種目の体験まで、参加者のレベルに合わせて提供
ウィルチェア・ローン (Wheelchair Loan Program)	車椅子 レンタル	<ul style="list-style-type: none"> 車椅子のレンタルプログラム BCWSA では、自分の車椅子を購入するように推奨しているが、経済的な理由により購入できず、BCWSA のレンタル車椅子を使用し続ける会員もいる より多くの障害児・者が、高価な車椅子を購入せずにスポーツに参加できるよう支援
スタッフ・サポート (Staff Support Program)	カウンセリング	<ul style="list-style-type: none"> 職員が障害児・者とその家族を1対1でサポートする
メンターシップ (Mentorship)	ピアサポート	<ul style="list-style-type: none"> 同じ経験をした障害者アスリートが、ピア・アスリートとして体験談を共有するなど、健常者には補えない部分をサポート

参考：BCWSA ウェブサイトより作成

BCWSA は、障害児対象の夏季キャンプや地域でのテニス教室などを30年以上開催している（図表1-35）。

図表1-35 BCWSA のキャンプ・イベント等の事業

名称	対象年齢	概要
車椅子テニスカンプ (Wheelchair Tennis Camp)	18歳以下	<ul style="list-style-type: none"> 夏季の3日間のプログラム 初心者から経験者まで参加 パラリンピアンがコーチとして協力 参加費と旅費の補助（遠方からの参加者を対象）を行う
ジュニア車椅子 スポーツキャンプ (Junior Wheelchair Multi-Sport Camp)	11歳以上	<ul style="list-style-type: none"> 夏季の5日間のプログラム 車椅子バスケットボール、ウィルチェアラグビー、アイススレッジホッケーなど多様な種目を体験 最後の2日間は車椅子バスケットに特化したキャンプ
テニス教室 (Tennis Club)	—	<ul style="list-style-type: none"> BC 州の6つの地域で開講 初心者から上級者まで、幅広い年齢層を対象 ※「上級」「中級」「ジュニア」「初級（成人）」などレベル分けをして開講

参考：BCWSA ウェブサイトより作成

2.5 大学を拠点とした障害者スポーツの振興

(1) 大学における障害者スポーツの振興

地域の障害児・者の身体活動・スポーツの促進において、大学の役割は重要である。IPC 初代会長・Bob Steadward氏は、障害児・者の健康増進について調査研究を実施する機関として、1978年にステッドワードセンター（The Steadward Centre：TSC）をアルバータ大学内に設置した。TSCはNPO法人格を有する団体で、大学内の体育・研究施設を共用しながら、会費やプログラム受講料、市の助成金等で運営している。また、マックマスター大学（McMaster University）では、脊髄損傷者や神経疾患患者を対象に、学生ボランティアによる一対一のフィットネスプログラム「MacWheelers」を開講している。

身体障害、発達障害、知的障害など幅広い障害種を対象とした大学の取組としては、アケイディア大学（Acadia University）の「S.M.I.L.E.（Sensory Motor Instructional Leadership Experience）プログラム」がある。S.M.I.L.E.プログラムでは、地域の障害児・者を対象に、週4回、学生ボランティアによる運動プログラムを提供している。

(2) アケイディア大学（Acadia University）の取組

1) S.M.I.L.E.（Sensory Motor Instructional Leadership Experience）プログラム

【背景】

レクリエーション・体育学部のジャック・ショルツ教授は、教員として働く卒業生の依頼のもと、ノバスコシア州キングス郡にある特別学級に通う7人の児童に水泳指導を行っていた。継続的に障害児へのスポーツ指導を行える人材を育成するため、サポーターとして学生ボランティアを募集したことが、S.M.I.L.E.プログラムの設立へと繋がり、1982年から運動療法学を受講する学生向けの実習の一環として実施された。当時、まだインクルーシブ教育が浸透しておらず、大学周辺の地域の障害児・者が学校や地域で孤立し、体を動かす機会が限られていたこともプログラム実施の背景にある。



写真：学生と参加者の水泳プログラムの様子（Acadia University ウェブサイトより）

【概要】

身体活動を通じた障害児・者の運動スキルの習得及び知覚機能の向上を目的としている。大学の体育施設（プール、体育館、グラウンド）を活用し、大学の財政支援及び市民・保護者からの寄付で活動をしている。S.M.I.L.E.プログラム運営委員会は、運動療法学部の教職員、民間企業、教育委員会、医師などで構成される。

【参加者】

1982年のプログラム開始以降、参加者は増加傾向にあり、2001年は120人、2015年は280人となっている。プログラム開始時に、地域の医療福祉従事者に対する周知を徹底したことで、積極的な募集を行わずとも、参加希望者が集まるようになった。参加者の障害種別は、自閉症が5割を占め、それ以外は、知的障害、二分脊椎、脳性麻痺、外傷性脳損傷、ダウン症などである。プログラム参加費は無料である。

【内容】

学生ボランティアが、火曜日、木曜日、金曜日、土曜日の合計週4回のプログラムを提供している（図表1-36）。その内、火曜日と木曜日は、近隣の学校から参加する障害児にボランティアを含めた約100人が参加して、水泳プログラムを実施している。金曜日は、障害者約50人を対象に、交流プログラムを夜

の時間を利用して行っている。また、土曜日には11歳以下の障害児約80人を対象に水泳や遊び、音楽などのプログラムも行っている。そのほか、キャンプ、ゴールボール、ハンドボール、フロアホッケー、スレッジホッケーなど様々なスポーツを体験する機会を与えている。参加者と学生がペアを組み、16週間にわたって活動するため、他者との信頼関係の構築、ソーシャルスキルの習得などを通して、障害児・者が社会性を培うことができる。大学の人的（学生・教員）・物的（施設）資源を積極的に活用し、地域の障害児・者のニーズに応じている。

図表1-36 S.M.I.L.E. プログラムの概要

曜日	時間	対象	参加者	内容
火曜	9:00~11:30	障害児 (近隣の学校から参加)	100人	・水泳
木曜			100人	
金曜	18:30~20:30	障害者 (青少年・成人)	50人	・交流を目的としたプログラム（スケート、料理、音楽、ゲームなど）
土曜	9:00~11:30	障害児 (11歳以下)	80人	・体育館での遊び、ゲーム、音楽 ・水泳 ・個人およびグループ活動

参考：Acadia University ウェブサイト及び提供資料より作成

【学生ボランティア】

学生ボランティアの申込みは年々増加しており、2015年は600人を超えた。運動療法学科の学生はS.M.I.L.E. プログラムでの活動が単位として認定されるが、単位として認定されない経営、生物、音楽、教育などの他学部の学生も多く参加している。

プログラムの質的維持と向上のため、全学生が事前トレーニングセッション（子供の発育発達、評価方法、年齢に合わせた運動療法など）を受講する。また、参加者に関する情報共有のため、期間中は毎週、定例打ち合わせを実施している。複数年にわたって活動を継続する学生も多く、経験者がボランティアリーダーとなり、後輩ボランティアの指導に当たる。

ボランティアを経験した学生の中には、卒業後、地域で小児科医、理学療法士、作業療法士、指導者など医療福祉・スポーツの分野で活躍している者も少なくない。



写真：学生に対するオリエンテーションの様子
(Acadia University ウェブサイトより)

2.6 国内統括障害者スポーツ団体による障害者スポーツの振興

(1) カナダパラリンピック委員会（Canadian Paralympic Committee : CPC）による障害者スポーツの振興

1993年設立のカナダパラリンピック委員会（Canadian Paralympic Committee : CPC）は、国内のパラリンピックスポーツの振興・強化を図る統括組織（前身は1981年設立のカナダ障害者スポーツ団体連盟）として27の統括団体と連携を図り、指導者育成、選手派遣、周知・啓発など多岐にわたる業務を担っている。ハイパフォーマンス部署（High Performance）、開発部署（Development）、アスリートカOUNCIL（Athlete Council）等、10の部署で構成されており、2016年5月現在、職員数は約30人である。バンクーバー大会後、職員数は倍増している。

1) チェンジング・マインド、チェンジング・ライブス（Changing Minds, Changing Lives）

2005年以降、学校、大学、スポーツ・レクリエーションセンター、病院等を拠点に3,000人以上の医療福祉従事者や教育者に対してパラリンピックスポーツ及びパラリンピックムーブメントに関するセミナーを開催している。2010年バンクーバー大会の成功を受け、国民のパラリンピックに対する理解度が高まったこともあり、パラリンピック等の一般知識に関するセミナーから、各競技及び種目により特化したセミナーへと発展した。

2) アラムナイプログラム（Alumni program）

同プログラムは、現役または引退したパラリンピアン任意登録制度であり、パラリンピアン同士の連携及び国内のパラリンピックムーブメントの推進を目的としている。選手に限らず、伴走者、パイロット（タンデム自転車に視覚障害選手と乗る晴眼者）、アシスタントも登録対象となっている点特徴的である。今後、ニュースレターやウェブサイトの立ち上げ、キャリアカウンセリング事業の展開を検討している。



写真：セミナーにおける車椅子バスケットボールの実技
（CPC ウェブサイトより）

2.7 施設のアクセシビリティと障害者スポーツの振興

(1) バンクーバーパラリンピック競技会場

1) BC プレイス・スタジアム (BC Place Stadium)

BC プレイス・スタジアム (BC Place Stadium) は、1986年に開催されたバンクーバー国際交通博覧会に先駆け、1983年にドーム型屋内競技場としてオープンし、後の東京ドームのモデルとなる。カナディアンフットボールの BC Lions Football Club とプロサッカーチームの Vancouver Whitecaps FC のホームスタジアムである。2007年1月、ドーム屋根の一部が破損し陥没したが、修理完了後もドーム型のまま2010年バンクーバー大会の開会式会場として使用された。パラリンピック終了後、5万4500人収容の全天候型開閉屋根式多目的スタジアムへと改修し、現在に至る。

障害者に対する配慮として、イベントの終了後、混雑と混乱を避けるため係員の誘導による障害者の優先退場がある。通常、車椅子観覧席の設計は、出入口やエレベーターに容易に到達でき、同伴者のスペースを確保しながら試合やイベントを見やすい位置に配置する必要があるため特定のエリアに集中しがちだが、BC プレイス・スタジアムでは、様々な席種から選択できるようにスタジアム全体に渡って車椅子使用者と介助者が一緒に観戦ができる車椅子観覧スペースが設置されており、合計103席の車椅子優先席がある。



写真：入口には障害者スポーツのアイコン、テリー・フォックスの銅像が建てられている



写真：車椅子使用者と介助者専用スペース

2) ダグ・ミッチェル・サンダーバード・スポーツ・センター (Doug Mitchell Thunderbird Sports Centre)

ブリティッシュ・コロンビア大学内のダグ・ミッチェル・サンダーバード・スポーツ・センター (Doug Mitchell Thunderbird Sports Centre) は、2010年バンクーバー大会開催決定を機に2008年に建設された。普段は、大学のサークルや地域クラブがアイスホッケーやスケートの練習に利用している。収容人数は約7,000人で、パラリンピックではアイススレッジホッケーの会場として使用された。練習専用を含め3つのリンクがあり、2つのリンクは、リンクに入るまでの段差を解消し出入口を拡張したことで、車椅子で直接リンクへの入場が可能である。観客席には、車椅子スペース (16席) を完備している。



写真：バンクーバー大会のアイススレッジホッケー会場



写真：全ての表示に車椅子マークが記されている

(2) その他の施設

1) カナダオリンピックパーク (Canada Olympic Park) とウィン・スポーツ (WinSport)

アルバータ州カルガリー郊外にあるカナダオリンピックパーク (Canada Olympic Park) は、1988年のカルガリー冬季オリンピックのリージュ、ボブスレー、スキージャンプの会場として建設された。大会後は、改修工事を重ね、地域住民や観光客が利用できるスポーツ施設として、冬はスノーボード、ボブスレー、アイスホッケー、夏はマウンテンバイクなどを楽しむことができる施設となった。パーク内のウィン・スポーツ (WinSport) には、世界で唯一、ボブスレー屋内練習施設が設備されている。

ウィンスポーツでは、エリートアスリートに対して質の高いトレーニング環境や医科学サポートを提供するほか、若手選手の育成のため、将来メダルの獲得が有望視される高校生が通うカナダスポーツスクール (Canadian Sports School) が設置されており、ジュニア期からトップレベルに至る体系的な強化体制を整備し、若手アスリートが、トップレベルのトレーニングを間近に感じながらエリートアスリートと交流・練習を積むことを目的としている。

また、これら施設・学校の運営及びジュニア・エリートアスリートに対する支援は、学校や地域の子供を対象に行うスキー教室や一般市民の施設利用による会費・利用費を主な財源としている。ウィンスポーツは、トップレベルのトレーニング施設でもありながら、地域住民や子供達がエリートアスリートと身近に触れ合え、同じ環境でスポーツを楽しむことが特徴的である。

隣接するカナダスポーツ殿堂 (Canada's Sports Hall of Fame) は、オリンピック・パラリンピックにまつわる品々を世界中から収集し、保管・展示している。日本からは、1988年のカルガリーパラリンピックに出場した日本代表選手のジャケット、1998年長野オリンピックの開会式で使用された下駄スキー等が寄付されている。社会科見学などで訪れる児童生徒のため、オリンピック・パラリンピックの音声ガイドによる解説 (ヒーローコーナー)、用器具展示コーナー、クイズ形式による学習を提供している。



写真：カナダオリンピックパーク内のウィンスポーツの概観



写真：スポーツ殿堂では、オリンピック・パラリンピック両方の記念品が展示されている